

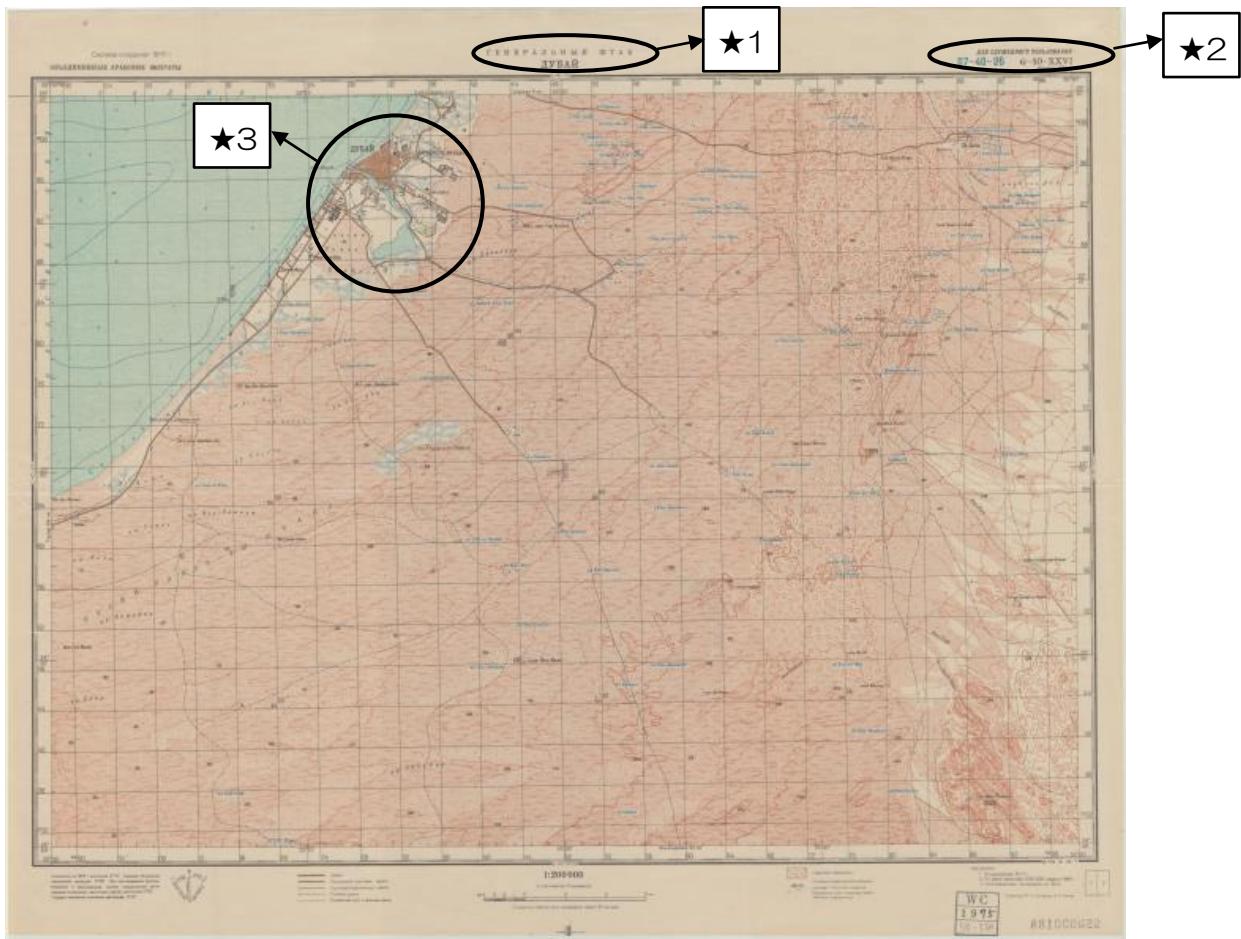
授業で使える当食官戸蔵地図

No. 54 『1:200,000 ドバイ (旧ソ連製 G-40-XXXII)』

作成年: 1970年

サイズ: 46×59cm

作 者: ソ連軍参謀本部情報総局



【解説】

ドバイは1972年に建国されたアラブ首長国連邦（以下 UAE）の7首長国のうちの1つである。国土のほとんどが砂漠で、地図中の東部は山地となっている。海岸に平行して北東—南西方向に何段もの砂丘列が並ぶ中、ドバイ川河口付近にドバイの町がみられる。19世紀にイギリスの保護領となるが、一中継港に過ぎなかった。また隣接するアブダビのような原油の埋蔵に恵まれず、近代的な発展が遅れていた。

ソ連は東西冷戦の中、軍事衛星などを使って全世界の地形情報の収集を行い、世界地図の作製を進めていた。ソ連崩壊後は機密事項であったこれらの地図が海外へ流出した。

★1 Генеральный штаб = 「ソ連軍参謀本部情報総局」
地図情報をはじめ、機密を取り扱う部署である。

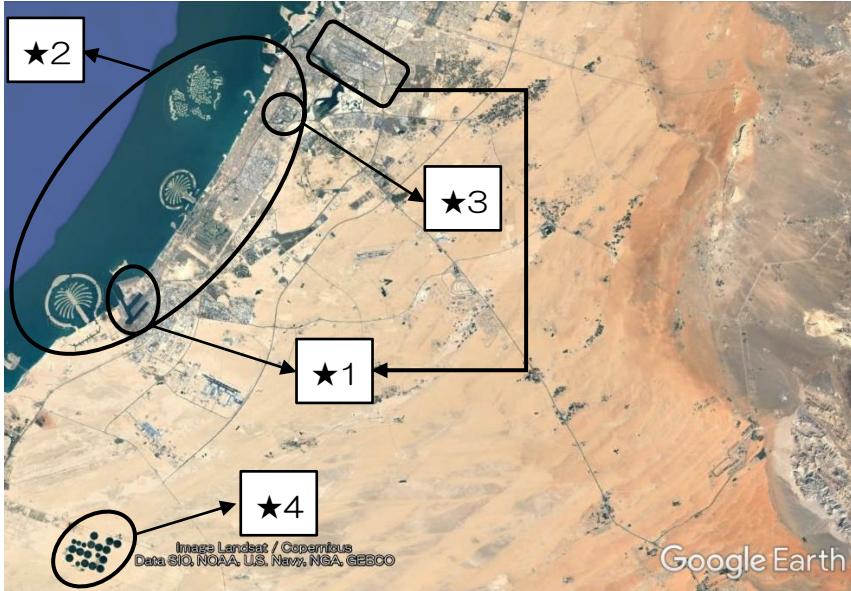
★2 Для служебного пользования = 「公式使用のため」
機密事項である地図情報は一般人向けに公開されていなかったことがわかる。

★3 ドバイ市街地

ペルシャ湾岸では古来、遊牧、漁業と天然真珠の産出、中世にはダウ船による中継貿易が行われていたが、第二次世界大戦後の不景気や養殖真珠の登場により衰退した。沿岸部には埠頭、市街地のはずれに空港がみられる。緑地はオアシス東のヤシ科植物のみで郊外は砂漠である。市街地へは近くのオアシスからパイプラインにより水が供給されている。



2018年のドバイ周辺（Google Earth より）



【解説】近年のドバイ

近年では外国企業の誘致や金融を集積させると同時に、高層ビル、鉄道・道路建設などインフラの整備を進めてきた。航空交通ではドバイ国際空港のハブ空港化、海運ではコンテナ船を中心とした拠点港を発達させ、人・物流の拠点として発展を続けている。

★1 沿岸部の港湾

遠浅な砂浜海岸のため、港湾は掘り込み式である。『中東のシンガポール』を目指し、80年代後半にはジュベル・アリ港付近の入り江を再開発してコンテナ対応させ、海上輸送と航空輸送を組み合わせた輸送システムを図った。また、ドバイ国際空港に隣接したフリーゾーン（自由貿易地域）を開設するなど、さまざまな貿易振興策を講じている。



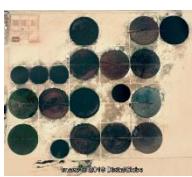
★2 パーム・ジュメイラをはじめとするリゾート開発

観光立国を目指したドバイは、ジュメイラ地区に人工島を造成し高級住宅やリゾートホテル建設を次々と行っている。「パーム」とはヤシを表している。中央がパーム・ジュメイラ、南西にはパーム・ジェベル・アリ、北東には世界地図を見立てた「ザ・ワールド」がみられる。



★3 ブルジュ・ハリファ

世界で最も高い828m、206階建ての超高層ビル（2019年現在）。2009年のドバイショックで建設資金難に陥った際、UAEの大統領であったハリファ・ビン・ザイード・アール・ナヒヤーン氏が経済的に建設を後押ししたため、その名前に由来して「ブルジュ・ハリファ」と名付けられた。「ブルジュ」は塔を表している。近くには「ドバイモール」という巨大ショッピングモールが隣接しており、巨大な人工池を配している。



★4 センターピボット

近代的な農業施設で、地下水を汲み上げて淡水化したのち、360度回転するアーチ形状の管から散水（肥料も含む）することで、効率的な穀物栽培を行う灌漑施設である。

【用語について】

ハブ空港

→車輪の主軸（ハブ）がスポークを広げるよう、周囲に放射状の航空路を持つ中心となる空港。幹線航空路であるハブ空港は国際・国内の発着便を集中させ、また周辺の空港へは乗換え便を就航させることで、航空機の効率的な運用が可能としている。ドバイの場合、エミレーツ航空とフライドバイがドバイ国際空港を拠点として、世界各地とドバイを結んでいる。

【利用の例】

○ドバイの移り変わりがわかる。

→一中継港の「点」であった市街地が近代的発展により水平的に、そして高層ビルの林立により垂直的に広がっていることがわかる。

→高等学校地理B 現代世界の諸地域「中央・西アジア」において、中東諸国の石油依存経済からの脱却と UAE（ドバイ）の多角化経営について考察することができる。

○中東の海上交通と航空交通を考察できる。

→中東の物流・人・サービスの拠点として、複合化・多機能化を図っていることがわかる。

○淡水化技術や産油国の労働力を考察させる。

→慢性的な水不足を解消するため、日本などの先進国の技術を導入して海水や地下水を淡水化し、農業用水をはじめ工業用水、生活用水や高級住宅のプール用や観光施設の人工池などに利用している。また、これらに携わる労働力を周辺諸国から受け入れることで、人口構成に歪みが生じていることを考察することができる。

○乾燥気候における農業がわかる。

→乾燥地域では外来河川や地表水に恵まれない地域では地下水路を設けるオアシス農業が中心となるが、資本にゆとりがある地域では、技術と資本を集約させて効率よく農作物を栽培したりするセンターピボットによる農業が行われていることがわかる。